



文学部
教授
長谷川 芳典

履修科目登録上限制について

履修登録上限制が話題にのぼった当初、私は「なるべく多くの単位を取ろうとする勉強意欲を損ねるのではないか」などの疑問をいただき、どちらかと言えば反対の態度をとった。しかし、その後、詳細な情報が伝えられるにつれて、むしろ積極推進の立場に変わっていった。

上限制は昨年9月に改正された大学設置基準の努力規定に基づいて導入が進められているものであるが、私がそれに賛成するに至った理由はもう少し別のところにある。主な論点は次の3つである。

- (1) 上限制を導入すれば、抽選が実施されている一般教養科目などで、真にその授業を受けたいという学生の履修機会が確保されやすくなる。登録総数が減ることにより、少なくとも第二順位以下の希望は通りやすくなるはずである。
- (2) 上限制導入により、最初から出席しない学生や自己都合で途中で投げ出す学生が減れば教育効果が上がる。学生は単なるお客様ではない。教える側は誠心誠意指導を尽くすことを約束、受ける側はその時間に参加し質問しきっちりと予復習することを最終回まで約束、その信頼関係を確立する第一歩が履修登録である。
- (3) 欲張って履修登録してしまうと、結果的に1つの科目の予復習に打ち込む時間が制限される。予復習を怠れば当該科目を難しく感じるのは必然。授業が難しくなってきた時に安易に「これをとらなくても別の科目に乗り換えればよいや」と投げ出す。履修登録数に上限を設けておけば、いったん登録した科目についてはいくら辛くなっても最後まで頑張らざるをえない。

しかし、上限制に全く問題がないわけでもない。語学や数学など、入学時から得意不得意のバラツキが大きい科目もある。上限を定めてしまうと、その分野を得意とする学生がより多くの上級科目を受講する機会を奪いかねない。そもそも、同じ科目を履修するにあたって、すべての学生の予復習時間を画一的に定めること自体には無理がある。

これに対応するためには、「努力賞」を設ける必要がある。具体的には、厳格な成績評価を前提とした上で、各学年もしくは各学期終了時に基準以上の成績をおさめた学生に対して上限枠を増やす措置をとることが考えられる。優秀な学生は、早期卒業により大学院に進んでもよいし、短期留学に行ってもよい。

もっとも、私が推奨するのは、増やされた枠を利用して専攻と異なる分野の科目をたくさん受講することだ。将来、学部間のバリアフリー化が進めば、別の学部の一連の科目を「副専攻」として履修することもできるだろう。上限制と副専攻制度化をセットにして、「医学専攻、倫理学副専攻」、「心理学専攻、統計学副専攻」、「経済学専攻、英文学副専攻」というような、社会的要請に応える、より広い視野をもった卒業生が送り出せるようになることを期待したい。

岡山大学教育開発センター
広報専門委員会
二〇〇〇年十一月二十五日発行

No.
2

VOICE

2



特集「上限制」





目次

議論の広場

「上限制」について	
－「上限制」が問いかけるもの－	
教育開発センター長（副学長） 佐藤公行	1
資料A 成績評価基準の見直しについて	2
資料B 学則の該当部分	3
履修科目登録上限制について	
文学部 教授 長谷川芳典	4
単位上限制と初修外国語	
文学部 助教授 大杉 洋	5
FD (faculty development) と上限制	
歯学部 教授 渡邊達夫	6
履修登録単位上限制とクォーター制の背景に対する私見	
薬学部 助教授 見尾光庸	7
We are killing students' learning!	
工学部 教授 斎藤清機	9
履修登録単位数上限制の憂鬱	
工学部 教授 五福明夫	11
履修科目登録上限制について	
環境理工学部 教授 品部義博	13
上限制とはなんだろう ～学生アンケートから～	
大学院 自然科学研究科 助教授 神崎 浩	14
上限制度：大学における自由について	
薬学部 総合薬学科 2回生 桑名由記	17
上限制について	
環境理工学部 環境管理工学科 1回生 福岡博行	18
上限制について	
環境理工学部 環境管理工学科 1回生 木原伸英・山本聖二	19

お知らせ

「授業評価アンケートの義務化」に関する教育開発センターの考え方	20
新しい岡山大学の組織	24
岡山大学新体制でスタート ー組織運営体制の整備と教育改革ー	27
インターネットで成績確認や住所登録ができます！	28
マルチメディア自習室のご案内	29
部門紹介	
岡山大学教育開発センター国際連携教育部門	
部門長 医学部 岡田 茂・教育学部 山下信彦・環境理工学部 谷口健男	30
第8回全学シンポジウムの開催について	32
編集後記	33





OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学 OU-Voice 第2号

編集・発行

岡山大学教育開発センター広報専門委員会

所在地・連絡先

岡山市津島中2-1-1 〒700-8530

電話：086-252-1111(代表) Fax：086-251-8440

E-mail：daf8423@adm.okayama-u.ac.jp